

Title	総合商社のブラジルにおける投資活動 - そのあるべき姿を求めて -
Sub Title	
Author	秋野, 哲範(Akino, Tetsunori) 小林, 規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1984
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1984年度経営学 第319号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0319

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

秋野 哲 範

主査 小 林 規 威

副査 和 田 充 夫

所属ゼミナール

小 林 規 威 研

奥 村 昭 博

総合商社のブラジルにおける投資活動 —そのあるべき姿を求めて—

商社は現在国内での環境変化の要請から海外活動を強化する必要に迫られている。しかし、近年、商社は、メーカーとの合併投資において、しばしば、メーカーの「商社離れ」現象に苦しんでいるとも言われている。本当にそうなのだろうか。この点を明らかにするために私は、商社とメーカーとの合併投資、すなわち、商社参加型合併を理論的かつ実証的に分析する必要を感じた。今後、商社とメーカーの協力の可能性と限界を、どう認識したらよいのか。これが本研究における私の問題意識である。

私は本研究で分析の基本的なフレームワークをまず、吉原教授の提唱されている対立緊張モデルに求めた。そして、私は吉原モデルを独自の立場から再検討し、両者の関係をより明確かつ実地的な視点で解明することに努力した。次に私は、自分の考えを実証するため、商社にとって重要な市場であると同時に、研究の材料も豊富なブラジルを調査対象国に選び、その中で活躍する繊維、機械、鉄鋼、非鉄の4つの産業について実態調査を実施した。

分析の結果、私は、少なくともブラジルにおいては、対立的な摩擦である緊張関係が高まる例の少ないことを知ったのである。その原因は何故か。それは、環境の激変が大きく影響して、メーカーが、商社の資源補充に対する期待を変化、拡大させたこともしくは商社が合併に対する参加度を低めたことにその原因を見い出せるものと考えた。

この点、私は環境の変化がブラジルにおける経営で必要とされる経営資源の性格を変え、これが両者の意図に「食い違い」を発生させていることにも気がついたのである。

以上から将来に向かい私は商社とメーカーの関係を理解する場合、吉原教授にみる様な単なる緊張関係のみでなく補充される経営資源への期待値の変動にも着眼点を置き、対立と同時に補完の質的な理解を進めていく必要があり、またそのためには、商社としてもより一層の努力を要すると結論した。